
教育総合センター

だより

NO. 161

令和 3. 9. 1



「笑顔の素」

尼崎市立難波の梅小学校
校長 中井 正人

新型コロナウイルス感染拡大が、本年度も学校教育活動に影響を及ぼすことについて、一定の覚悟を持って新年度をスタートしました。そんな中での緊急事態宣言の発出、期限延長、再延長により、学校行事をはじめ、多くの教育活動への影響など、大きく揺さぶられた1学期でした。何とか先をできる限り見通しながら判断し、決断していくことの繰り返しです。あらためて、情報交流と共有、意思統一の大切さを感じています。そこでは、各人が蓄えてきた経験知が大きな役割を担うのではないのでしょうか。

令和2年度の尼崎市立小学校教諭（教諭・主幹のみ）の平均年齢は37.7才で、20代は29.5%、30代44.9%、40代16.6%、50代8.9%でした。20代と30代が約75%を占めています。大量退職・採用の波が一段落した今後においては、経験豊かな人を含め他者の経験知を共有する場をいかに設定するのが重要に思います。一人ひとりが自分の生活や仕事の中で経験できることには限りがあります。多くの人の経験を共有できることは貴重でもあります。

以前に読んだ雑誌のコラムに、「ハンガートーク」の紹介が掲載されていました。これは、航空会社のパイロットたちの間にある会話の場だそうです。「ハンガー」は飛行機の格納庫のことで、天候が悪くてフライトできなくなると格納庫の片隅に集まっ

て経験談を語っていたということです。

そこでは、ベテランの経験談から危機回避の方法を学ぶことができます。ある航空会社は、これを仕組み化して、ノウハウを社内に蓄積する試みもしているということです。「ハインリッヒの法則」として、1件の重大事故の背後には重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、さらにその背後には事故寸前だった300件の「ヒヤリハット」が隠れていると言われています。この「ヒヤリハット」経験を乗務員が共有する仕組みです。その際、「誰がした」ではなく「何が起きた」に目を向けることを重要視しています。

私たちは、子どもたちの「笑顔」を大切に思い、第一に考えて日々の教育活動に取り組んでいます。「笑顔」の素をより増やすためには、何よりも教職員の「笑顔」が必要不可欠です。他者の経験知から学び、自己の資質・能力をさらに向上させる豊かな人間関係が仲間意識や所属感を醸成し、モチベーションを高めます。極めてアナログですが、おしゃべり、雑談といった直接的なコミュニケーションの場を大切にし、気軽にそれぞれの思いを語り会える会話が日常的にできるようになれば、教職員の「笑顔」もさらに増え、子どもたちの笑顔溢れる学校になるのではないのでしょうか。

☆☆ 教育総合センター 研究部会の取組 ☆☆

これまで本市の研究部会は、時代の要請や本市の教育的課題等に応じた、様々なテーマを設定して先進的な研究を進めてきました。そこには、各研究テーマの中で「子どもたちに求められる力とは何か、またその力をどのように育成すればよいか。」などの大きな教育的課題に対し、議論を重ねながら、研究・実践を積み上げていく研究部員の先生方の姿があります。

1 研究部会について

令和2年度は、次の5部会を立ち上げ、研究してきました。

- (1) ICT 活用研究部会・・・『尼崎市版 GIGA スクール構想』の実現に向け、1人1台のコンピュータを効果的に活用するための実践交流等を行う。
- (2) STEAM 教育研究部会・・・教科横断的に情報活用能力を育成するための実証研究等を行う。
- (3) 授業力向上研究部会・・・尼崎市版『授業改善の視点』を踏まえた、教員の指導力向上を目指し、研究を行う。
- (4) 体力向上研究部会・・・園児・児童・生徒が楽しく体力作りに取り組むことができ、かつ発達段階に応じた運動プログラムの開発を目指し、研究を行う。
- (5) ステップ・アップ調査活用部会・・・「あまっ子ステップ・アップ調査」結果を分析し、学力向上のための取組を検証し、改善方法を見出す。

これらの中で、授業力向上研究部会の取組について紹介します。

2 授業力向上研究部会について

小学校では令和2年度より、中学校においては今年度より、新学習指導要領が実施されています。新学習指導要領の全面実施に向けて、本市では平成28年度より令和元年度まで小学校国語科、小学校算数科及び中学校（平成30年度まで）においてアクティブ・ラーニング部会を発足・展開し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業実践を重ねてきました。また、平成30年度には尼崎市版『授業改善の視点』を作成し、各校において周知を図ってきました。授業力向上研究部会では、これまでの取組を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業実践を先進的に進めている、たつの市立新宮小学校 石堂 裕先生を講師としてお招きし、尼崎市版『授業改善の視点』を、より効果的に活用できるよう、その内容を具体化・焦

点化した指導実践事例集を作成することを目指しました。

指導実践事例集を作成するにあたり、研究部員の先生方から構成や内容について「小学校・中学校のどちらでも活用できる、汎用性のある構成がよいのではないか。」「学習者主体の授業実践とするための、教師の手立てがみえる内容が良いのではないか。そのために、本時の指導計画と、単元計画を合わせて作成すれば良いのではないか。」「文字だけでなく、写真等も組み合わせ、見やすく、読みやすい構成が良いのではないか。」といった様々な議論がなされました。そうした議論を経て、決定した構成・内容に基づいて、先生方の実践を落とし込み、事例集を作成しました。事例集については、研究報告書第58号に掲載されていますので、是非ご活用ください。以下は実践事例集の一部です。

本時における『授業改善の視点』活用事例

【第5学年】 【国語科】	「大造じいさんとガン」	人物像や物事の全体像を具体的に想像することができる。
-----------------	--------------------	----------------------------

重点項目

【深い学び】②調べたことや話し合ったことを基にして、自分の考えを形成している
【対話的な学び】①他者と対話する前に自分自身の考えを持つ、機会を作っている

＜学習前の児童・生徒の姿(課題)＞
大造じいさんは、なぜ目の前にいる残雪を銃で撃つことはしなかったんだろう？



本時の流れ

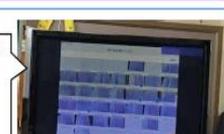
1 大造じいさんの心情が表れている叙述を確認し、心情を考える根拠にする。

2 心情曲線に大造じいさんの気持ちの変化を表現し考えていく。

指導のポイント

ポイント1【対話的な学び】①
教科書の文章から大造じいさんの心情を考え、心情曲線を考えていく。交流する前に自分の考えを具体的に示していく。

自分の考えた心情曲線の図をロイロノートで提出していく。テレビ画面に映すことで、全員の考えを共有していく場面を作る。



3 これからの研究部会

令和3年度は、ICT 活用推進部会、探究的な学習研究部会、授業力向上研究部会、体力向上研究部会の4つの部会を発足し、更なる実践研究を進めているところです。

教育総合センターではこれからも、子どもたちの成長を願い、日々教壇で指導される先生方に向けた、指導のヒントとなるような教育実践研究を先生方とともに積み重ね、発信していきます。今後、ご興味のある研究部会が発足した際には、是非ご参加ください。尼崎市の教育の発展のため、ともに学び続けましょう。

(学び支援課指導主事 小谷 隆宏)

☆☆「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の

あり方について（基本方針）」の実施にあたって☆☆

尼崎市教育委員会では、平成 23 年 1 月に「特別支援教育の方針」を策定し、特別支援教育の充実に取り組んできました。その後の学校教育法施行令の一部改正や障害者権利条約、「尼崎市教育振興基本計画」を踏まえ、令和 3 年 2 月に「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育のあり方について（基本方針）」（通称：「あまっ子方針」）を策定しました。教職員の方々には、リーフレットをお配りしましたが、ご覧になりましたか。また、日々の教育活動において、この内容を意識していただいているでしょうか。

令和 3 年 2 月に校園長と特別支援教育コーディネーターに研修をしましたので、改めて基本理念と重点目標についてご紹介します。

1 基本理念

すべての支援の必要な子どもたちの自立と社会参加に向け、関係機関との連携を進め、学校園全体で一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導支援を行うとともに、誰もが多様性を理解し尊重し支え合う共生社会の担い手となる子どもたちの育成をめざします

2 重点目標

- (1) 幼・小・中・高等学校における支援体制の整備と充実
- (2) 早期からの相談支援と個に応じた適切な就学相談の推進
- (3) 学校園間および関係機関の連携(縦と横の連携)
- (4) あまよう特別支援学校の専門性の向上とセンター的機能の充実
- (5) 教職員の専門性の向上
- (6) 特別支援教育についての理解・啓発

これらの重点目標を踏まえて、各校でイン

クルーシブ教育について組織的な取組が求められています。尼崎市の特別支援教育について平成 21 年度と令和 2 年度を比較すると、小中学校の特別支援学級数は、約 1.4 倍、特別支援学級在籍児童生徒数は約 2.14 倍となっています。

しかし、支援を必要としているのは、特別支援学校や特別支援学級の子もだけではありません。大切なことは、子ども一人ひとりに寄り添い、子どもがどのような状況なのか、何に困っているのか、どのような支援を必要としているのかを理解することです。また、保護者の願いに耳を傾けるとともに、十分に情報提供をし、よく話し合い、合意形成を図り、共に育てていくという気持ちが重要です。

令和 3 年 6 月 18 日には「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の公布について」が公布され、すべての子どもが安全・安心な学校生活を送るために大きな一歩が踏み出されました。子どもたちは日々成長しており、社会の状況や教育環境も刻々と変わってきています。子どもたちの発達や適応の状況を把握し、必要に応じて柔軟に対応してください。

教育委員会は、学校園とともに子ども一人ひとりの将来の自立と社会参加を目指して教育、保健、医療、福祉等の関係機関と連携し、個々に応じた指導や支援ができるよう努めていきます。

(特別支援教育担当課長 渡邊 明美)

教育情報コーナーのお知らせ

☆教育情報コーナーのご案内

教育情報コーナーでは、先生方に利用していただきたい本や資料、雑誌等を整備しています。教育総合センターでの研修や会議の時など、ぜひお気軽にお立ち寄りください。（3F 教育情報コーナー）

また、必要な図書、資料等のご相談にも応じております。お気軽にお尋ねください。

【新着図書】

- ・『どうしても頑張れない人たち』 宮口幸治 著／新潮社
- ・『こどもジェンダー』 シオリーヌ 著／ワニブックス
- ・『自律する子の育て方』 工藤勇一 青砥瑞人 共著／SBクリエイティブ
- ・『子どもの思考をゆさぶる授業づくりの技術』 森川正樹 著／学陽書房
- ・『子どもの相談・救済と子ども支援』 吉永省三 他編／日本評論社
- ・『ヤマ場をおさえる学習評価 小学校』 石井英真 鈴木秀幸 編著／図書文化
- ・『全員を聞く子どもにする教室の作り方』 多賀一郎 著／黎明書房
- ・『迷走する教員の働き方改革』 内田 良 他著／岩波書店
- ・『GIGAスクール構想』 堀田博史 監修／東京書籍
- ・『GIGAスクール時代の学校』 堀田龍也 監修／東京書籍
- ・『最後まで読まれなかった「クリスマスの物語」』 渡邊信二 著／高文研
- ・『学習評価』 田村 学 著／東洋館出版社
- ・『生活に根ざした かく・つくる・造形あそび 3・4・5歳児』 中井清津子 著／サクラクレパス出版社

【新着DVD】

- ・『いろんな性別～LGBTに聞いてみよう！～』 制作／新設Cチーム企画2011

(担当 松浦)

☆教育総合センターは、知の宝石箱！ 「ひと咲きタワー」は、学びのタワー！

【本の紹介】

■『人生に必要な教養は中学校教科書ですべて身につく』（中央公論新社 2020年6月初版発行）

著者 池上 彰：1950年長野県出身。慶應義塾大学卒業後、NHK入局 2005年からフリーになり、テレビ出演や書籍執筆など幅広く活躍 著書多数 佐藤 優：1960年東京都出身 作家・元外務省主任分析官 英国の陸軍語学学校でロシア語を学び、在ロシア日本大使館に勤務、2005年から作家に、著書多数

著者2人の対話形式で書かれているが、教科書を楽しく読むコツが書かれている。「中学校教科書をマスターすれば、現代を生きる日本人にとって必要な教養は十分であるといえる」「教科書に書かれていることが、覚えなくてはならないものから、自分たちの社会を理解するための有意義な知識に変わる」「古代からあった東アジアの緊張関係」「多様な『人権』を語っている」「理科を生かせるこんな仕事」「英語のコミュ力が鍛えられる実用版」等々……興味深い内容が具体的におもしろく語られています。教科書を見る一つの視点になるのでは……

■『Q&Aでわかる先生のためのアンガーマネジメント』（明治図書出版 2021年3月初版発行）

著者 佐藤恵子：一般社団法人アンガーマネジメントジャパン代表理事 臨床心理士・私学中学高等学校スクールカウンセラー 著書『怒りの裏側にあるもの—こころの扉を開けたその先に』他

学校現場のスクールカウンセラーとしての経験をもとに、アンガーマネジメントの基礎知識から、様々な場面における「イライラ」に対処するアンガーマネジメントの方法をQ&A方式でわかりやすく解説しています。コロナ禍の中、ついイライラしがちな先生方に参考になる1冊です。

※教育総合センターには、すてきな本がたくさんあります。

(担当 西川)